



健康シンポジウム「こころの健康～ふわふわ言葉とちくちく言葉～」

6月24日、拡大学校保健委員会として、「健康シンポジウム」を行いました。今年度も互いの意見を交換することで、役割を確認し、行動・実践できることをねらいとして開催しました。

今回のテーマは「こころの健康～ふわふわ言葉とちくちく言葉～」です。子どもたちの様子を見てみると、自分の思いをうまく言葉にできずに悩んだり、相手のことを考えない言葉を発してしまったりする姿があります。そこで、**お互いが言葉を上手につかって、気持ちのよいコミュニケーションをとれるようになってほしい**との思いから、このテーマを設定しました。保護者の皆様におかれましては、大変お忙しい中、多数ご参加いただきありがとうございました。

自分では分からないうちにお互いに人を傷つけているのではないか。人を傷つけた言葉は自分に返ってくる。それでけんかになってしまう。自分が相手を思いやって行動すれば、「ありがとう」の言葉がもらえる。言葉は暴力になる。心が傷つくと学校にも行きたくなくなる。今から始めましょう、気持ちのよい「ふわふわ言葉」の毎日を。
(児童代表)

保育士の仕事をしている。まだ1歳で言葉が発せない子にも、悪い言葉やよい言葉はちゃんと伝わっている。ちくちく言葉はつい出てしまい、後から後悔する。娘から「仕事がんばって」と言われたり、「ありがとう」の手紙をもらうと力がわいてくる。ふわふわ言葉はすごいパワーがある。相手の気持ちを考え、言葉を選んで話すこと。そして、ふわふわ言葉ははずかしがらずに伝えることが大切と思う。
(保護者代表)

「ふわふわ言葉」は言われた人だけでなく、言った人も幸せにする。転校してきたA君は、きつい言葉をかけない。注意するときもいやな気持ちにならないように気をくばっていた。「ふわふわ言葉の名人」だから、みんなに好かれていた。「ふわふわ言葉」はよい友達をいっぱい集め、自分を豊かにしてくれる。大切な自分を大切に育てる言葉をつかってほしい。
(教職員代表)



◎ 講師のお話 (白河市教育委員会学校教育課)

- ① 同じ言葉でも心しだいであげた意味をもつ。言葉を聞いただけでは、その人の本当の気持ちは分からない。言葉と心はくっついている。言葉の奥の心を知ることが大切である。
- ② 助け合うという気持ちや行動のものは、いたわりという感情である。「いたわり・他人の痛み・やさしさ」は訓練して身に付けなければならない。例えば、友達が転ぶ、「痛かったらうな」という気持ちを、自分の中で作り上げていって、それを言葉で表現していく。
- ③ ちくちく言葉と感じたら「ちくちくしたよ」と言おう。友達が言われたら「ちくちく言葉じゃない」と言おう。ちくちく言葉を言ってしまったら「ごめんね」と素直に謝ろう。

〇〇先生のA君の話で、人にふわふわ言葉を言うと、信頼されると思った。〇〇さんの「ありがとう」の話にも共感できた。お母さんの話では、1歳や2歳児でも「ありがとう」で、最高の笑顔を見せるのは、今の私たちも同じと思った。私も言われるとうれしい。「ありがとう」は、誰が言われてもうれしい気持ちになる言葉である。

(6年)

私は「ふわふわ言葉」は本当に大切なんだと思った。ちくちく言葉は言われた人も言った人も心がきずつくので、言わないように気をつけたい。そして、人が言っていたり、言われていたりしたら、「ちくちく言葉だよ」と教えてあげようと思った。また、ふわふわ言葉をたくさん使って、やさしい人になりたいと思った。

(5年)

〇〇さんや〇〇さん、〇〇先生のお話を聞いて、ふわふわ言葉は、人に好かれ、友達ができると分かった。ちくちく言葉は、人からきられ、友達ができないと思った。講師の先生もスクリーンを使って、分かりやすく説明してくれてすばらしかった。ちくちく言葉には気をつけたいと思った。

(4年)

